瀧本議員（民主県政会）

平成 26 年 12 月 10 日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）農業の担い手の確保・育成につながる教育について

新たに就農を希望する人たちに対しては，農林水産局で経営学や農業技術を習得するなどの支援メニューが揃えられている。

しかしその一方で，将来の農業を支える子供たちにとっては，農業を生業とすることが見い出しにくい環境にあるように感じる。

特に都市部では，農業で生計を立てる人を目にすることが少ないため，自らの将来の職業として農業をイメージする子供は少ないだろう。

また，農業教育が受けられる県立高校も，東広島市のほか，県の東部・北部地域に点在しているため，県の西部地域に暮らす子供たちにとっては，遠い存在である。

農業の喫緊の課題である高齢化から脱却するためには，若手人材の確保が必要であり，そのためには，教育委員会でも中長期的な視点で，本県で学ぶ中高生に対して，農業の担い手となることにつなげられる教育に取り組む必要があると考えるが，教育長の所見を伺う。

（答）

高等学校の農業科におきましては，将来の農業のスペシャリストとして必要な知識や技術を修得させ，地域産業を担う人材を育成していくことを目指しているところでございます。

その前段階として，小学校社会科におきましては，米作りや野菜作りなどについて調べ学習を行ったり，中学校の技術・家庭科では，生物の栽培技術について学んでおります。

また，総合的な学習の時間におきましては，地域の方々から栽培の方法を教わりながら，米作りや野菜作りなどを自ら体験することを通して，農業に従事している人々の工夫や努力を知り，収穫の喜びなどを実感する学習が行われているところでございます。

今後とも，児童生徒が，農業などに対する興味・関心を高めるよう，体験学習の充実を図るなど，授業の工夫・改善に努めてまいります。